

教育実践例 教材に関する学生の反応と指導—国際文化交流—

佐々木 隆

プロローグ

大学教員の担当科目はその研究の専門性から長期にわたることが多い。科目「国際文化交流」もその一つである。筆者の科目担当歴は以下の通りである。

「国際文化交流論」(武蔵野短期大学国際教養学科、2002年度～2005年度)

「国際文化交流」(武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部、2004年度～現在に至る)

「国際文化交流特殊講義」(武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科博士前期課程、2007年度～現在に至る)

「国際文化交流特殊研究」(武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科、博士後期課程、2011年度～現在に至る)

最初に担当を開始してからすでに15年を経過した。武蔵野学院大学及び武蔵野学院大学大学院の博士前期課程・博士後期課程は設置時に着任しているため、文科省の研究業績及びシラバス等の審査を受け担当した。

1 シラバスと国際関係

担当科目について最も重要なのはその科目を担当するための背景、すなわち、研究業績や研究内容であり、その研究の内容をどのようにして教育に生かしていくかということだ。研究をどのように授業に生かしていくかが大学では特に重要な務めではないだろうか。その意味で言えば、シラバス、具体的には15回の授業計画である。さらにここに、科目の性格上、理論だけではなく、国際関係といった政治分野とのかかわりも

無視できるものではない。それは国際文化交流の定義そのものの曖昧さもあるが、本学では教職課程の英語の教科に関する科目の区分「異文化理解」に配置されている科目である。従って、英語圏の内容を扱うことがある程度求められている科目の前提条件がある。

国際文化交流という大きな枠組みから言えば、2002年の日韓ワールドカップ、2002年のダグラス・マッグレイのクール・ジャパン論⁽¹⁾、2003年の宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』の米・アカデミー賞長編アニメ賞受賞、2004年のジョゼフ・S・ナイ、Jr.による本格的なソフト・パワー論の発表、2005年の『映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査 報告書』（国土交通省・経済産業省・文化庁）によるコンテンツツーリズムの提唱、2008年の観光庁の設置、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催は扱うべき内容である。しかし、2017年ともなれば、15回という限られた回数の中では2002年の日韓ワールドカップについての扱いは軽く、2020年の東京オリンピック・パラリンピックについては重く扱うのは時流というものだ。政府の政策などにより文化交流や観光政策が大きく左右されるため、政策への注目も重要な要素となる。このため、文化外交という枠組みを設けた外務省の政策も無視できるものではないため、まさに現在を学ぶにふさわしい授業科目である。

2 授業計画

武蔵野学院大学が設置された2004年度の授業計画と2017年度の授業計画を比較してみたい。

2004年度～2007年度

- 1 国際文化交流とは何か
- 2 日本の国際文化交流史
- 3 日英文化交流史と日英交流

- 4 日英文化交流 文学（1）
- 5 日英文化交流 文学（2）
- 6 日英文化交流 演劇・ミュージカル（1）
- 7 日英文化交流 演劇・ミュージカル（2）
- 8 日英文化交流 映画（1）
- 9 日英文化交流 映画（2）
- 10 日英文化交流 観光
- 11 日英文化交流 留学
- 12 ブリティッシュ・カウンシルの活動
- 13 国際交流基金の活動
- 14 新しい時代の国際文化交流（総理懇）
- 15 日本の国際化とは何か

2017年度

- 1 「文化」とは何か／隣接する専門用語の解説
- 2 日本文化ブーム 江戸～戦前
- 3 日本文化ブーム 戦後～現在
- 4 国際文化交流の文化アイテム クール・ジャパン
- 5 国際文化交流の文化アイテム マンガ／アニメ
- 6 国際文化交流の文化アイテム ファミコン／デジタルコンテンツ
- 7 イギリス文学・映画・演劇の受容
- 8 アメリカ文学・映画・演劇の受容
- 9 日本の紅茶受容史
- 10 日本の英語教育史（グループディスカッションを含む）
- 11 万国博覧会
- 12 東京オリンピック・パラリンピック（グループディスカッションを含む）
- 13 政府の国際文化交流事業と政策（政府のHPの調査）

- 14 文化交流・文化外交・パブリックディプロマシー（PD）
- 15 まとめ 今後の国際文化交流

2004年度の授業計画について自己分析すると以下のようなことが挙げられる。

- 1 日英文化交流に特化した内容になっている。
- 2 分野別に記載されているところもあるが、具体性にやや欠ける。

2008年度から2010年度は若干の変更をしながら、2011年度以降は2017年度の授業計画とほぼ同じように推移した。2017年度の授業計画について自己分析すると以下のようなことが挙げられる。

- 1 日英文化交流に限定されず、国際文化交流全般について取り上げている。
- 2 日本の紅茶受容史、日本の英語教育史など具体的な内容を提示している。特に日本の英語教育史は英語の教科に関する科目としてふさわしい内容を項目として取り上げている。
- 3 クール・ジャパンなどの新しいキーワードにも目を向けている。
- 4 東京オリンピック・パラリンピックといった時代に合った内容を取り上げている。
- 5 インターネットの利用を意識し、アクティヴラーニングを取り入れている。

項目には直接記載されていないが、「グローバリゼーション」「グローカリゼーション」「文化帝国主義」などの専門用語の解説は当然「1 『文化』とは何か／隣接する専門用語の解説」で取り扱うこととなる。このほか、外務省のポップカルチャー外交については「4 国際文化交流の文化アイテム クール・ジャパン」、スポーツ庁については「12 東京

オリンピック・パラリンピック」、観光庁、世界遺産などは「13 政府の国際文化交流事業と政策」などで取り扱うことになる。

3 教材及び教科書

授業計画が決まれば、これに沿った教科書あるいは教材の選択や作成を行うことになる。教員によっては教科書や教材の選択をメインとして、これにそった授業計画を立案することとなろう。筆者の場合には前者である、授業計画が優先となり、これにあった教科書がなければ自主的に教材を作成することとなる。

2004 年以降大学の授業での使用教科書は以下の通りである。

拙著『国際文化交流』（石倉誠文堂、2005 年 6 月）

拙著『国際文化交流論』（石倉誠文堂、2006 年 12 月）

拙著『新しい国際文化交流論』（多生堂、2009 年 9 月）

拙著『日本文化ブームと国際文化交流』（多生堂、2012 年 4 月）

2004 年度はいわゆるプリントを配布していたが、配布することが煩瑣になることと、学生がプリント教材をなくすことが多く、その都度対応することあまりにも非効率であることから、自身で教科書を執筆してしまった方が効率的と考え現在は『日本文化ブームと国際文化交流』（2012）を使用しているが、ここ 1, 2 年で見直しが必要である時期に来ていると考えている。

『日本文化ブームと国際文化交流』（2012）の構成は以下の通りである。

第 1 章 日本文化ブーム

第 2 章 クール・ジャパン

第 3 章 メディア芸術

第 4 章 文化交流と文化外交

第5章 日本の国際文化交流史

関連年表

単純に考えれば、各章を3回ずつかけて授業を行うようなことになるが、実際には補足を要するところもあるため、各章を2回程度で授業を行い、5回分は補助教材等でカバーすることになっているのが現状である。特に教科書でカバーできていない「用語の解説」「東京オリンピック・パラリンピック」「万国博覧会」の補足教材をインターネットで自身のHPより配信することとしている。

大学院用の教科書としては以下のようなものを作成した。

拙著『クール・ジャパン マンガ／アニメの今後の展望について』（多生堂、2010年3月）

拙著『文化交流から文化外交へ』（イーコン、2010年10月）

拙著『日本文化ブームから文化外交まで』（イーコン、2011年5月）

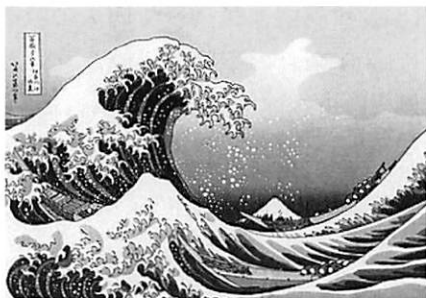
大学院用のものは参考文献などを充実させる意図から作成した。現在は参考書として部分的に使用している。授業の有り様として、授業計画を優先しているため、自身で教科書を作成する場合には、当然授業計画が反映されることになる。

4 学生の興味関心

実際の授業で学生の関心が高かったものをまず紹介しておきたい。

- 1 葛飾北斎の『北斎漫画』
- 2 葛飾北斎の描いた天使
- 3 聖地巡礼
- 4 リオオリンピックのフラッグ・オーバー・セレモニー

「1 葛飾北斎の『北斎漫画』」
「2 葛飾北斎の描いた天使」
は2017年度授業計画（2011年度よりほぼ同一）の「2 日本文化ブーム 江戸～戦前」で取り上げた。



葛飾北斎（1760～1849）と言えば、富士山を描いた『富嶽三十六景』（1831?-1835?）で知られているが、授業で注目したのはむしろ、『北斎漫画』（1814-1878）である。引用を含めて教科書『日本文化ブームと国際文化交流』（2012）で次のように紹介した。

「北斎漫画」でいう漫画とは、折りにふれ、筆のおもむくままに描いた絵といった意味であり、森羅万象あらゆるものを題材に描いた「北斎漫画」は、まさに眼で見る江戸百科ともいうべきものです。それは北斎自身のデータバンクともいうべき性格もおびていて、「富嶽三十六景」の作品中にも、「北斎漫画」から図柄や構図の原型をもってきたものが見られます。このような「北斎漫画」は、当時、江戸の庶民から大名まで広く親しまれ、今日で言う大ベストセラーとなりました。



『北斎漫画』より

『北斎漫画』とは、葛飾北斎が絵手本として発行したスケッチ画集で、1812年秋頃、後援者で門人の牧墨僊（1775-1824）宅に半年ほど逗留し300余りの下絵を描いたと言われている。1814年に名古屋の版元永楽屋東四郎（永楽堂）から初編が発行され、その後1878年までに全15編が発行された。人物、風俗、動植物、妖怪変化まで約4000図が描かれている。国内で好評を博しただけでなく、その後1856年に、日本の浮世絵がヨーロッパに広まる契機となったのもこの『北斎漫画』である。（2）

実際にはこれにパワーポイントでさらに次のような画像も見せている。



(3)

『北斎漫画』は静止画であるが、この中に動きがある。『北斎漫画』は「絵の手本」であるが、人の動きをスケッチしたものが多くあり、これを独立してひとつの絵とし、ぱらぱらめくれば、まさにアニメーションになる。北斎の頭の中にはこうした動画的なイメージがあったことは一目瞭然だ。



上記のように1枚づつにしたものをスライドショーでパラパラ漫画のように見せた。これにはかなりは学生もかなりインパクトがあったよう

だ。

「2 葛飾北斎の描いた天使」については、まず日本史の復習を行い、徳川時代の鎖国（限定貿易）開始が 1639 年、ペリー来航は 1853 年、1854 年に日米和親条約が結ばれ、いわゆる開国となったことを確認した。鎖国という表現がふさわしいかどうか、ここでは学生共に検討した。理由は、鎖国とは言っても、オランダ、明（その後は清）、当時の朝鮮とは貿易を行っていたことから決して海外から完全に遮断されていたわけではなかったからだ。

文科省もこのことについて、ようやく反応した動きがあったようだ。

小中社会科、「鎖国」消える...次期学習指導要領
読売新聞 2/14(火) 17:03 配信

「鎖国」が消える――。

文部科学省が 14 日に公表した次期学習指導要領の改定案では、小中学校の社会科で「鎖国」の表記をやめ、「幕府の対外政策」に改める。中学歴史でも史料に忠実に、「聖徳太子」を「厩戸王（うまやどのおう）」に変える。

文科省によると、江戸幕府は長崎でオランダや中国との交易を許し、薩摩（鹿児島県）、対馬（長崎県）、松前（北海道）でも外交と貿易が行われていた。完全に国を閉ざしていたわけではないため、当時の実態に即して表記する。

「鎖国」は 1801 年、ドイツ人医師の著書の一部が和訳され、「鎖国論」と名づけられたことから広まったといい、文科省の担当者は「幕府の政策に関し、鎖国という言葉は使われていなかった」としている。これに対し、「開国」という語は、欧米諸国との関係を表す際に使われていたため、現状のまま残す。⁽⁴⁾

筆者自身はもともと国際文化交流の授業では表現として「鎖国」ではなく、「限定貿易」という表現をしてきた経緯がある。

北斎が西洋の影響を受けていたことを彷彿させるものが『上町祭屋台天井絵・怒濤図』(1845)である。

屋台といってもこれはいわゆる山車のことである。その屋台の天井に描かれた絵ということで、上町屋台天井絵と言われているのである。

北斎が残した立体造形物で、肉筆ということから注目を浴びている。現在、長野県小布施の北斎館に常設展示されている。これまでは図録でしか見ていなかったが、筆者も2016年11月に実際にそこを訪れ、『上

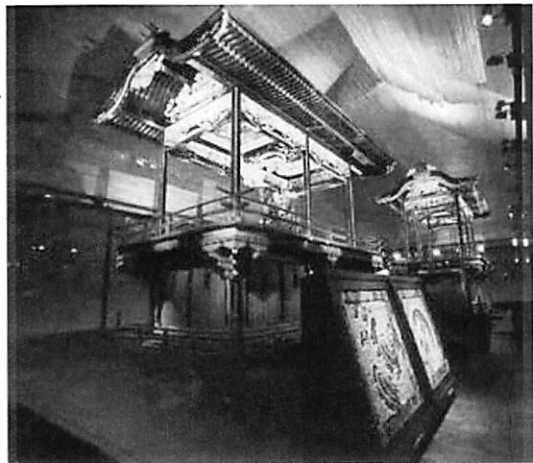


筆者撮影

町祭屋台天井絵・怒濤図』を観て来た。屋台天井絵は2枚描かれており、「怒濤図」と呼ばれている。「怒濤図」は2枚あることから、「女波図」と「男波図」と言われている。

時代的にも江戸時代後半

となることや、北斎が欧州に与えた影響、また、西洋から受けた影響については、『上町祭屋台天井絵・怒濤図』(1845)の「女波図」の額縁には天使が描かれていることは注目に値する。館内は撮影禁止になっているため、「女波図」は同館のHPより紹介したい。ここでは残念ながら、モノクロ印刷のため、その色彩豊かなで力強さを十分にご覧いただくことができない。実際の色彩につい



(5)

ては同館のHPをご覧頂きたい。「波図」について注目すべきは、その波の図柄ではなく、縁の部分である。



鸚哥
(インコ)

栗鼠
(リス)

天使 (エンジェル)

(6)

右の縁には鸚哥 (インコ) と栗鼠 (リス) と思われる動物が描かれている。辻惟雄『北斎の奇想』(2005) でも次のような指摘がある。

金色の縁に描かれたエキゾチックな花鳥やエンジェルの文様が異色である。⁽⁷⁾

なお、『怒濤図』には「男波図」「女波図」(「男浪図」「女浪図」と言われることもある)があるが、「女波図」の額縁には天使の外にもインコ2羽、リス2匹も描かれている。天使、リス、インコをもう少し拡大してみたい。植物についての分析を行っていないが、ここにも大きな意味がある

ことだろう。



『怒濤図』の発見の経緯等については荒井勉『北斎の隠し絵』(1989)に詳細が論じられている。『上町祭屋台天井絵・怒濤図』(1845)は現在、長野県小布施町の北斎館で保存されているが、北斎自身、高井鴻山(1806 - 1883)の招きで1842年に始めて小布施の地を訪ねた。北斎は80歳を越えてから小布施を訪ねたのである。当時、儉約を強制する天保の改革が始まったのが、1842年で娯楽施設の閉鎖、出版物の禁止にも及んだ。渡辺崋山(1793-1841)、高野長英(1804-1850)を検挙した鳥居耀蔵(1796-1873)は南町奉行となり、北斎と親交のあった柳亭種彦(1783-1842)も罰せられ、最終的には死に至った。

『女浪図』の周辺に描かれている動物について観察してみると、『男浪図』と同様三種類の動物が描かれていた。エンゼルが一人、インコが二羽、リスが二匹である。

エンゼルは、神のいる聖域から飛んでくることのできる動物とされている。したがって葛飾北斎は、エンゼルを聖獣の一種類と考えて描き込んでいたと言える。キリスト教の知識ルートについては、後の著で示したい。

裸の童子に翼が生えている姿というのは、日本の絵の中には存在しない。その点では、まさしくエンゼルの姿を葛飾北斎は描いている。が、エンゼルを描いた場所は小布施である。かつて洋書で見たエンゼルを葛飾北斎は、記憶の中から引き出して描いていたことになる。洋書を模写する作業とは違いが出てきて当然であろう。

エンゼルの頭髮は、西洋人らしく栗色である。しかし、西洋人のようにカールしておらず、真すぐな髪の毛で描かれている。また、西洋のエンゼルは、白鳥の翼をつけている。しかし北斎のエンゼルの翼には茶色の色彩が混じっている。つまり、スズメの翼をつけさせている。したがって葛飾北斎の描いたエンゼルは、東洋化されて表現されたものとなっている。(8)

当時の対オランダ、中国、朝鮮との限定貿易、すなわち鎖国政策では、外国からの貿易を長崎の出島に封じ込めたように思いがちであるが、北斎の「女波図」などを見る限り、どこかで天使の絵を見ない限りあれだけのものは描けないのではないかと思うほうが自然であろう。

北斎の天使をみて感じることは以下の通りである。

- 1 天使が持っている植物に何か意味があるのだろうか。
- 2 天使の翼がまるで雀のような翼になっている。
- 3 天使は「白」というイメージがあるが、ここではそうした色彩ではない。

ちなみに、島原の乱の時代に生きた山田右衛門年(1575-1657)の『天草四郎陣中旗』(『聖体讃仰天使図旗』)に



(9)

には天使が描かれている例などもあり、影響関係の調査は新しい資料の発

見により新展開を迎えることがある。

『天草四郎陣中旗』（『聖体讃仰天使図旗』）は1637年の天草四郎が島原の乱で使用されたものとされている。北斎の天使とは異なり、ここには宗教感がある。こうした事実は高等学校の検定教科書では扱えるものではなく、大学の国際文化交流としてもふさわしい内容である思える。学生もこれまでの隠れキリシタンということは聞いたことがあろうが、葛飾北斎が描いた天使については当然、誰一人知る者はなかった。

「3 聖地巡礼」については葛飾北斎よりももっと学生には身近で、学生の取り組み方もかなり熱心であった。学生の中には自身が聖地巡礼をしている者もあり、歴史とは異なり、時間としてもリアルタイムのことであり、なぜ、自身が聖地巡礼するのか、また、その聖地巡礼がコンテンツツーリズムと命名されたことにより国の政策になったことは、一種、驚きでもあったろう。

コンテンツツーリズムが大きく注目されるようになった要因には平成16年度国土施策創発調査『映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査』（2008）ではないだろうか。「第3章 地域に関わる映像等コンテンツの活用による地域振興のあり方」には次のようにある。

「観光立国行動計画」を通じて、「観光立国」「一地域一観光」の取り組みが推進される中で、地域の魅力あるコンテンツの効果的な活用が注目されている。これまでもNHK大河ドラマを始めとして、映画・ドラマの舞台を観光資源として活用しようとする取組は多かったが、最近になって、「ラブレター」「冬のソナタ」「世界の中で、愛をさけぶ」などの話題作が登場する中で、改めてその可能性が注目されている。また、映画をテーマにしたテーマパーク（ユニバーサルスタジオ）、アニメを活かした街作りなどの例にみられように、集客要素としてのコンテンツの活用は、現実の世界を対象とした映画・ドラマにとどまらず、まんが・アニメ・ゲームも含めて拡大し

好き、アニメオタクの行動という以上に、観光産業にとって大きな意味を持つまでになっている。さらに 2008 年には観光庁も設置され、こうしたコンテンツツーリズムは単なる観光政策、外国人観光客用のインバウンド用のものでもなく、また、地域活性化・地域振興のためのツーリズムでもない。政府は戦略として進めているのはかもしれないが、聖地巡礼は特別なものではない。それを暗に示しているのが、「春節爆買いより癒し アニメ舞台 地方に人気」(『読売新聞』2017年1月29日)ではないだろうか。買い物という物理的な満足感を満たしたあと、人が求めるのはやはり心の問題である。

「4 リオオリンピックのフラッグ・オーバー・セレモニー」⁽¹¹⁾

2016年8月21、リオデジャネイロ・オリンピック(以降「リオオリンピック」と略す)は閉会式を迎え、東京への引き継ぎセレモニーでの11分30秒の映像⁽¹²⁾、特に3分17秒以後の約8分間に注目し、そこに登場したポップカルチャー・アイテムに注目した。2016年後期の授業で早速取り上げた、瞬なトピックである。

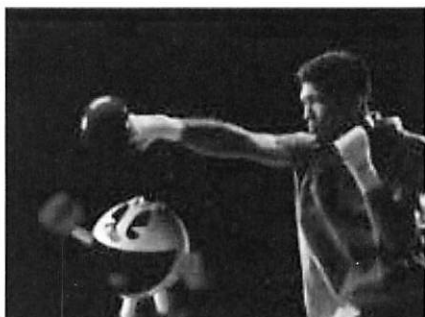
オリンピックの閉会式では次の開催都市への五輪旗の引き継ぎ式(Flag Handover Ceremony)を行う。今回のセレモニー全体はクリエイティブスーパーバイザー・佐々木宏と音楽監督兼任の椎名林檎の2人、総合演出と演舞振付はMIKIKOが担当した。セレモニー中に流れた映像中のキャラクターで特に注目したい箇所は以下の通りである。



映像 1



映像 2



映像 3



映像 4



映像 5



映像 6



映像 7



映像 8



映像 1 の解説

ハローキティ：1974年にサンリオが生み出したキャラクター。ユニセフの親善大使などを務め世界中に知られた日本のキャラクターのひとつ。映像で登場するのは2ヶ所。最初はチアリーダーの格好をした応援するハローキティとして単独で登場し、2回目は高橋尚子が赤いボールをリレーする場面で伴走者として登場した。高橋尚子は2000年のシドニーオリンピック・女子マラソン金メダリスト。

映像 2 の解説



(13)



(14)

大空翼：サッカーのマンガ・アニメ『キャプテン翼』の主人公。1981年より連載開始（1980年は読み切り物として発表）。1983年よりテレビアニメとして放映。映像で登場するのは2ヶ所。最初は岬太郎とのツインシュートの場面が紹介され、2回目は高橋尚子が投げた赤いボ

ールをオーバーヘッドキックで村田諒太へパスする場面である。自衛隊のPKO活動で車両にラッピングの実績（特に中東）。サッカー人気の地域や国では特に大人気のキャラクター。

映像3の解説

パックマン：ファミコン登場以前、1980年にアーケイドゲームとして登場。米『タイム』誌が2012年11月15日に発表した歴史上最も偉大なビデオゲーム100本に選ばれる。また、クリス・コロンバス監督『ピクセル』（2015）はゲームキャラクターが登場する映画で、パックマンも登場した。映像で登場するのは二ヶ所。最初は陸上競技の選手が一斉にスタートしたあとにゲーム上に見立てたパックマンが登場し、2回目は村田諒太が赤いボールをパンチする場面で共演する。村田諒太はロンドンオリンピック・ボクシングミドル級金メダリスト。

映像4の解説

この映像の前に安倍首相は腕時計（オリンピック公式スポンサー、オメガの1964年モデル）を見る。その時間は9時29分。

映像5の解説

「私はリオには間に合わない」との字幕が英語で表示。座席には赤い帽子。これは安倍首相がマリオの力を借りるためのアイテム。公用車の背景は国会議事堂。

映像6の解説

ドラえもん：1969年にマンガとして登場。1973年よりテレビアニメとして放映開始。2008年に外務省よりアニメ文化大使に任命される。2013年には2020年東京オリンピック招致スペシャルアンバサダーを務めた。特に欧米に比べ、日本と生活様式が似ているアジア圏での人気が高い。ドラえもんが登場するのは2ヶ所。最初は東京をイメージしたビルの窓に竹コプターでのび太等と登場する。2回目は安倍首相扮するマリオが渋谷の交差点中央に来た時、竹コプターで登場し、ポケットから土管を取り出し、これを地面に設置するところである。

スーパーマリオ：1985年に任天堂が『スーパーマリオブラザーズ』（ゲ

ーム)として発表。マリオはとして登場するのは安倍首相が変身した姿として登場し、渋谷の交差点でドラえもんが設置した土管を通ってリオへ向かう場面である。

映像7の解説

行き先はリオ、そこへ行くのはマリオに扮した安倍首相。案内地図RIOからMARIOへ変わる粋な計らい。

映像8

マリオの力を借りてリオに到着した安倍首相。

国会議事堂を出発した安倍首相がリオに9時30分までに間に合わないという設定で、安倍首相がマリオとドラえもんの力を借りてリオへ到着するというものであった。ドラえもんには「どこでもドア」という便利グッズがあるが、ここはマリオが登場するため、ゲームでお馴染みの土管の存在が不可欠である。腕時計を見てから約四十秒後に安倍首相がリオに到着した。リオへのリレーを手助け・応援したポップカルチャーのキャラクターがハローキティ、大空翼、パックマン、ドラえもん、マリオであった。今回のセレモニーでは敢えて、日本の伝統文化を抑え、新しい日本のイメージをメインにしたものである。別の味方をすればクール・ジャパンを全面に押し出したものである。

学生への質問として、どうしてハローキティ、大空翼(キャプテン翼)パックマン、ドラえもん、マリオが登場したと思うか、あるいはどうして利用されていたのかと対して、ほとんどの学生が「世界中に知られているから」というもので、それ以上のものはなかった。解説にでも示したように、政府との関係、あるいは国際機関との関係が背景にあることが重要なのである。『ドラゴンボール』『ワンピース』といった戦闘ものがここに登場しない理由が、平和の祭典を趣旨にしているオリンピックとの整合を考えた時、すくなくともオーバーフラッグセレモニーにふさわしいかは難しいところだろう。大学の授業である以上、まさに「今」を題材にした授業展開であった。

エピローグ

初めて短大の授業で「国際文化交流論」を担当してから数えるとすでに15年間もこの「国際文化交流」の授業を担当している。筆者自身がいわゆる人文学系を研究対象としているが、「国際」と冠がついた時点ですでに政治学の分野、「文化」が含まれる以上、社会学の分野とも関係することとなった。高等学校までの授業と異なり、文部科学省による検定教科書というものが大学にはない以上、科目担当者の考えで授業を進めることになる。しかし、教育課程のなかの1科目ということを考えれば、科目配置の意味付けを理解しなければ配置上の整合性がなくなってしまう。教職課程においてこの科目が「異文化理解」に配置されていることを考えれば、単に日英文化交流、日米文化交流に限定されずに、オリンピック・パラリンピック、万国博覧会といった世界的なイベントを扱うのは当然のことだろう。また、2020年に向けて国からもオリンピック教育を行うよう要請も大学には届いている。「世界の中の日本」を意識しながらも、日本人としてのアイデンティティを確固たるものとするためにも、海外から見られている日本を考えながら、今後も国際情勢を意識しながら、学生の異文化理解の一助となるようにしたい。

注

- (1) McGray, Douglas. “Japan’s Gross National Cool” (*Foreign Policy*. May/June, 2002)。通例、クール・ジャパン論の名で知られるようにあった。なお、マッグレイ／神山京子訳「世界を闊歩する日本のカッコよさ」(『中央公論』第188巻第5号、中央公論社、2003年5月)として翻訳も発表されている。
- (2) 佐々木隆『日本文化ブームと国際文化交流』(多生堂、2012年4月)、pp.8-9

(3) 「北斎漫画」

(<http://www.tttombo.com/hokusaimangga/hokusaimangga06.gi>)

(2017年2月5日アクセス)

(4) 「小中社会科、「鎖国」消える...次期学習指導要領」

(<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170214-00050142-yom-soci>)(2017年2月14日アクセス)

*拙著『江戸時代のシェイクスピア受容』(イーコン、2013年10月)では「『鎖国』の表現については『限定的な国交』あるいは『限定貿易』といった意味合いで取り扱う。」(p.5)と考えていた。また、注釈のp.78でも論じた。

(5) 「上町屋台」の写真

(<https://www.bing.com/images/search?q=%e4%b8%8a%e7%94%ba%e7%a5%ad%e5%b1%8b%e5%8f%b0%e5%a4%a9%e4%ba%95%e7%b5%b5%e3%83%bb%e6%80%92%e6%bf%a4%e5%9b%b3&view=detailv2&&id=BA1FA1D7F4B2222CAE4F3ED51FF48FA2841461ED&selectedIndex=52&ccid=OOUQ71la&simid=607990383453079460&thid=OIP.OOUQ71laK4ojMHZvn4o6KgEsES&ajaxhist=0>)(2017年2月5日アクセス)

(6) 「上町祭屋台天井絵・怒濤図」

http://www.hokusai-kan.com/yatai/kanmachi_yatai05.html(2017年2月5日アクセス)

(7) 辻惟雄『北斎の奇想』(浮世絵ギャラリー3)(小学館、2005年11月)、pp.23

*同書には怒濤図の「男浪図」「女浪図」の図版が収録されている。

(8) 荒井勉『北斎の隠し絵』(AA出版、1989年12月)、p.46.

*2011年10月8日(土)22:00~22:30 放映のテレビ東京「美の巨人【葛飾北斎「怒濤図」】」でも取り上げられた。

(<http://www.tv-tokyo.co.jp/kyojin/backnumber/11008/> (2015年9月1日アクセス))

(<http://tvtopic.goo.ne.jp/program/tx/618/517253/> (2015年9月1日アクセス)

- (9) <http://www.amakusa.tv/jintyuki.html> (2017年2月5日アクセス)
- (10) 平成16年度国土施策創発調査『映像等コンテンツの制作・活用による地域振のあり方に関する調査 報告』(国土交通省総合政策局観光地域振興課、経済産業省商務情報政策局文化情関連産業課、文化庁文化部芸術文化課、2005年3月)、要約編-11.
- (11) 該当箇所は「ポップカルチャーの行方—日本から発信する魅力—」(比較文化史学会、2016年12月17日・研究発表・国土館大学)における発表をもとに、加筆修正を施し、掲載したもの。
- (12) 映像「【NHK リオ】2020へ期待高まる！トーキョーショー」については以下のものを利用した。
(https://www.youtube.com/watch?v=sk6uU8gb8PA&feature=player_embedded)(2016年12月17日アクセス)
- (13)http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/iraq/renraku_j_0412c.html
(2017年2月10日アクセス)
- (14)http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/iraq/renraku_j_0412b.html
(2017年2月10日アクセス)

【キーワード】国際文化交流、クール・ジャパン、葛飾北斎、オリンピック・パラリンピック

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授

武蔵野教育研究 第3巻第9号

2017年7月1日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室